

論文要旨

所属ゼミ	高木晴夫 研究会	学籍番号	80328604	氏名	武元 亮
(論文題名)					
<h3>規模に依存しない組織デザインの原理</h3> <p>－プロジェクト、単一企業、産業集積に見る自律的環境適応モデル－</p>					
(内容の要旨)					
<p>企業を取り巻く外部環境の不確実性が高まる中で、企業が競争優位を確立し持続的な進化・発展を成し遂げる為には、自らの成長戦略のもとに主体的・自律的に環境変化に適応する柔軟性を備えた組織能力の重要性が今後ますます高まっていくのではないかというのが組織運営における筆者の問題意識である。</p>					
<p>そこで本研究では、組織を取り巻く環境の不確実性が高まる中で組織が環境変化に対し柔軟に適応していく為のフレームワークを抽出し、一般化（モデル化）の可能性について考察する事を目的としている。また、仮説モデルの有用性が組織規模に依存しない事を検証する為、研究対象を3つの領域、即ち最小主体組織としてプロジェクト、中間主体組織として単一企業、最大主体組織として産業集積に分類し検証を行っている。</p>					
<p>自律的環境適応モデルは、その構成要素の特徴から組織活動を形成する上でのハード要素と、主に従業員のマインドに起因するソフト要素に大別される。ソフト要素とハード要素は更に各々2つの構成要素を有し、それらの要素が相互作用する事で新たな知識や知恵を創造し、組織の自律的な環境適応に貢献すると考える。また、モデル構成要素間の相互作用をサポート・促進する機能として、組織運営者のリーダーシップについて考察し、モデルの一部として組み込んでいる。</p>					
<p>本研究を通じて主張する自律的環境適応モデルは、組織運営者にとって組織の環境適応能力を測るチェック・リストとなると共に、組織設計者や組織運営者が今後新たに自律的環境適応型組織をデザインする際の羅針盤となる事を期待している。</p>					